

令和8年 菊陽町 二十歳の成人式



1 式典に参加する皆さん 2・4・8 仲の良い友だちと記念撮影 3 後ろ姿も美しく 5 力強い歌声を披露 6 伝統衣装に身を包む 7 会場を盛り上げる実行委員

菊陽町二十歳の成人式が1月11日、町図書館ホールで開催され、370人が参加しました。会場では晴れやかな衣装に身を包み、友人たちとの再会に笑顔を見せていました。

式典で吉本町長は「これからの菊陽町を担う町民として、『ふるさと菊陽町』のために、力を貸して欲しい」と話されました。

式典後はビデオレターが上映され、懐かしい恩師のメッセージに会場では歓声が上がりました。また二十歳の成人式実行委員会が考えたアトラクションでは、カラオケ大会や抽選会が行われ、会場は盛り上がりを見せました。

会場の外では旧友たちとの久しぶりの再会に、記念撮影をし、思い出話をするなど終始和やかな雰囲気になっていました。

二十歳の主張——式で発表した主張の一部を紹介します。

本日、私が主張させていただくことは、「自分を持った大人を目指して生きていく」ということです。私は現在、東京の大学へ進学し、熊本では味わったことなかった多くの経験をさせていただいています。大学で広がった人間関係は確かに豊かなものでした。しかし、その一方で互いに深く踏み込むことの少ない関係性のなかでは、自分をさらけ出す機会も限られ、心から盟友と呼べる存在をつくれずにいます。

「1時間で自分について語りなさい」と言われたら皆さんは語れるでしょうか。私はこの問いに言葉を紡ぐことができませんでした。今この瞬間も「これがやりたい」「あれが欲しい」「そんな望みはあっても、貫きたい信念はまだ見つかりません。これまでの約20年間、私は周囲に恥じない人になりたいと思い、努力を続けてまいりました。お手本となる道を歩み、多くの支えをいただいたながら、後悔のない日々を送ってきたという自負があります。しかし、それは誰かの正解をなぞっていただけかもしれないと思うのです。社会的評価や他者とのつながりを取り払ったとき、私には何が残るのか

でしょうか。肝心の私は、そもそも何者かという輪郭すらまだつかめておらず、理想の信頼関係を作るために自己を開示しようにも、その核が定まっていないことに気づいたのです。今、二十歳の節目に立ちながら、私は高らかに夢を語ることも、確固たる信念を述べることもできません。

青年期はアイデンティティを確立する時期だと言われますが、私はまだその入り口に立ったばかりなのかもしれません。だからこそ、これからはこの未完成な自分と向き合い、問い続け、形作っていききたい。確かに自分がないからこそ、これから出会う人々との関わりの中で時に衝突し、時に支え合いながら、私とは何かを探し続けること、答えはまだありませんが、この絶え間ない探求こそを、私の二十歳の主張したいと思います。



出席者代表
きりあけ ももこ
切明 桃子さん
武蔵ヶ丘中学校出身

二十歳の抱負や目標を皆さんにお聞きしました



たま りく
玉井 利玖さん

市役所に努めており、市民のためになるよう仕事に取り組みたいです。



にしうち
西内 ひかりさん

今年から県外での就職となり、新天地で頑張っていきたい。



こもり よういちろう
小森 陽一郎さん

就職活動が本格化するので、気を引き締めていきたい。



おおつか りん
大塚 凜さん

自分の実現したい夢に向かって頑張っていきたい。



くわはら ひでとし
桑原 英寿さん

食生活など、健康に気を付けて過ごしていきたい。



かわしま さや
川島 咲彩さん

しっかりとした目標をもって行動する。